

起こるべくして起きた停電事故！ 会社管理者の安全姿勢問われる！

6月22日、大阪仕業検査車両所で停電事故が発生しました。今回の事故の原因は、Z48編成の作業者がEGSを切らないで断路器「入」を要請し断路器を投入した後パン上げスイッチを押さないのにパンタグラフが勝ってに上昇し停電事故になったということです。通常 EGS が入っていればパンタグラフは上昇することはありません。しかし、今回の事故はパンタグラフのU金具の不具合からフックが外れてパンタグラフが上昇し停電となったのです。

会社は、事故が起きればいの一に作業者に責任を追及することで問題を終息する姿勢は変わっていません。しかし、今回の事故は、単にヒューマンエラーで済まされる問題ではありません。今回と同様の車両故障は、最近2年間で4件も発生しています。会社は不具合があることを知っていたのです。しかし、仕業・申告班の社員には、そのことが一切明らかにされず日夜作業を行ってきたのです。これは、安全な車両の提供と安全な作業を遂行する観点からみても会社管理者の姿勢に問題があるといえます。

そもそも、パンタグラフの不具合を発見した時点で当直は修繕車両所への修繕手配を行なうべきだったのです。そうすれば今回のような事故は防げたのです。

緊急申し入れを行う！！

分会は、今回の事故が作業者のヒューマンエラーということだけで終息してはならないと考えます。なによりも安全に対する会社管理者の意識の問題！そして適切な作業指導！大事故に繋がらないためにも、二重、三重の安全対策！さらに、今回のようにパンタグラフのU金具から、フックが外れて上昇するような車両故障の原因究明を追及するために申し入れを行っていきます。